

栃木県におけるクマ類出没防止対策の実施に係る評価報告
(出没防止対策事業)

1 事業実施地域周辺の現状の出没・被害状況、出没防止対策の実施状況及び課題等

【出没・被害状況】

事業実施地域（クマ対策ゴミステーション設置場所）である鹿沼市、那須塩原市、那須町は、いずれもツキノワグマの生息域であり、県が策定する「栃木県ツキノワグマ管理計画（五期計画）」の計画対象地域となっている。

令和6年度の目撃件数は県内全体で255件、うち鹿沼市9件、那須塩原市29件、那須町54件となっている。また、那須塩原市においては令和7年度に人身被害が立て続けに3件発生しており、地域住民の不安が大きくなっている。

【出没防止対策の実施状況及び課題】

それぞれの地域において、出没防止対策のためゴミステーションの管理について住民への注意喚起等を行っているが、具体的な取組は実施していない。

2 出没防止対策の具体的な内容

実施時期	令和7（2025）年3月10日～3月31日
場所	鹿沼市、那須塩原市、那須町
目的・目標	ニオイが漏れず、クマが開けることができないクマ対策ゴミステーションを設置することで、出没抑制につなげる。
内容	クマ対策ゴミステーションの設置及び出没状況の調査
方法	県内3箇所にクマ対策ゴミステーションを設置し、その効果を検証
評価方法	センサーハーネスでのクマの出没の確認
事業費とその算出方法	クマ対策ゴミステーション設置業務委託 2,871,000円 センサーハーネス・電池 92,070円
備考	

注1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。出没防止対策が複数ある場合は、対策の種類毎に各項目を記載すること。

注2：実施主体が市町村の場合、各市町村の実施する具体的な内容を記述すること。

3 実施した出没防止対策の評価（事業終了後の評価報告時のみ）

クマ対策ゴミステーションの設置業務は予定通り滞りなく完了することができた。設置した場所のうち、1箇所は以前クマの出没が確認されていたが、クマ対策ゴミステーション設置後はクマの出没は確認されていない。他の2箇所についても、いずれも出没はなかった。

注1：当初予定されていたとおり事業が適切に実施されたか記載すること。

注2：事業実施地域ごとに、事業実施前後の被害指標（出没件数、被害件数、被害感度等）を比較し、事業実施の効果が事業実施地域に現れているか評価すること（定量的な指標が難しければ、客観性を確保した定性的な指標を使用する。）。なお、事業効果の比較は同じ季節に行うことが望ましく、当該

年度内での事業実施後の効果の確認が難しい場合は、次年度の実施とする旨記載すること。
注3：注1による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。

4 その他

注1：出没防止対策の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。

栃木県における出没時の体制構築に係る評価報告
(出没時の体制構築事業)

1 現状のクマ類の市街地等への出没時の対応体制及び課題等

栃木県では出先事務所レベルで「鳥獣被害対策地域連絡会議」を設置しており、クマの出没等も含めた緊急時の連絡体制がすでに存在している。実際、人身事故発生時や緊急に対応が必要な事案については、夜間・休日でも連絡網により、警察、市町担当課、県、県出先事務所、地元猟友会と速やかに連絡調整を図る体制ができている。

一方で、市街地に出没した際はすでに個体がいない場合が多く、現場での追い払いや捕殺等の経験が不足している。

2 クマ類の出没時の体制構築に係る具体的な内容等

実施時期	令和 6 年 12 月 5 日
場所	旧寺子小学校（栃木県那須塩原市寺子 1146-2）
目的	市街地・集落等への出没を想定した追い払いや捕獲等の訓練を実施することにより、非常時に応える体制を構築
参加者・関係者	栃木県、那須塩原市、栃木県警察本部、那須塩原警察署、猟友会支部
内容	市街地にツキノワグマが出没した想定で、発見から捕獲に至るまでの一連の動き・関係機関の役割等を実際の流れの中で確認
方法	実地で実際の流れに沿って実施
評価方法	
事業費	消耗品 225,882 円（クマ鈴、クマスプレー、爆竹等）
備考	

注 1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。

注 2：実施主体が市町村の場合、各市町村の実施する具体的な内容を記述すること。

3 実施内容の評価

県内全市町、全環境森林事務所あて案内を行い、開催市近隣市町、警察、獣友会等
80名を越える参加があった。

1箇所の開催であっても県内での横展開が期待できる。

注1：事業が適切に実施されたか記載すること。

注2：事業の実施により、出没時の対応の流れや関係者の役割分担の明確化、協力関係の構築等が進んだか評価し記載すること。

注3：注1～2による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。

4 その他

注1：出没防止対策の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。